



平成 28 年 11 月 11 日

当別町長 宮司 正毅 様

特定非営利活動法人ゆめの種子トープ
理事長 堀江 三千代

平成 29 年度当初の当別町の予算にかかる要望について
日頃から、当法人の活動にご理解ご協力を賜り心から感謝申し上げます。
さて、このことについて下記のとおり要望と提言をしますので、ご多用とは存じますが平成 29 年 1 月 20 日までに文書で回答くださるようお願い致します。

記

1. 町立図書館基本計画策定委員会の設置について

このことについて、昨年度提出した当法人の要望書（平成 27 年 11 月 20 日付）に対して、町長から、図書館については、町全体の公共施設のあり方を検討していく中で平成 28 年度中に議論を行うとの回答（平成 28 年 5 月 20 日付、当企総第 92 号）がありましたが、現在までの検討状況を公開してくださるとともに、図書館基本計画策定委員会の設置に向けた平成 29 年度予算の具体化を求めます。

また、町長はこの回答の中で、図書館は「町として、当別町に必要な施設として認識している」と述べています。現在、町内に図書館機能が存在しない中で、当別町及び北海道関連の文書資料や図書・文献は日々失われていっている状況にあります。これらは当別の歴史を正しく証明する資料として、将来作られるであろう町立図書館に必要な資料です。

専門的なスタッフを配置し地域住民と協力して、今すぐにでも、それら資料の収集に取り組む体制を整備し、具体的に事業を推進してください。

2. 町史編さん事業について

旧岩出山藩主従の当別移住 150 年事業として取り組まれる町史編さん事業への対応として、今年度から、あらたに社会教育課内に「町史編さん係」が設けられたと承知しています。

前回の町史（『当別町史』昭和 47 年刊）編さんのベースになった資料が役場内等に保存されておらず、またこれまで、この事業に向けた資料の収集も行っていない状況の中で、150 年事業としての町史編さんは困難を極めると考えられます。

町史編さんにあたっては、研究者を主体とした「町史編さん委員会」を設置し、事業の計画づくりなど具体的な事業推進を要望します。

また事務局には、さらなる専門職を配置し早急な資料の収集などを町民と連携を図りながら進めることを要望します。

3. 「吾妻家文書」の整理保存について

本年、旧岩出山藩の家老であった吾妻謙の遺族から当別町に寄贈された膨大な量の古文書は、

岩出山から本町移住への歴史を解明する貴重な手がかりです。この膨大な資料は、一時、当別町が整理解読を手がけその後、手に負えないとして吾妻家に返却された経過があると聞いています。

町は寄贈を受けたこの資料について、今年度は、大崎市にある「岩出山古文書を読む会」にその整理を委託していますが、平成 29 年度以降は、当別町内において吾妻家文書を解読する「歴史講座」を開設するなど、地元・当別町内で資料解読などを進めることが第一義であると考えます。そのための予算措置を行ってくださるよう要望します。

そういった事業が当別町開拓研究に対する「すそ野」を広げるとともに、町民の歴史に対する関心を高め、郷土愛も醸成されるものと考えます。

4. 旧当別町開拓郷土館の収蔵資料について

旧当別町開拓郷土館は当別町開基 100 年を記念した事業として資料（「モノ資料」）の収集が行われ開館に至ったものですが、利用者減などを理由に公民館の老朽化に伴って平成 19 年に「廃止」されそのままの状態となって放置されています。「モノ資料」は、「文書資料」などと共に、当別町民がたどってきた歴史や地元の豊かな自然環境を証明するものとして重要です。

このまま放置することは財産の活用につながらないばかりか、郷土館開設時の町民の厚意をないがしろにするものであると考えます。150 年事業として取り組まれる町史編さん事業とともに、旧当別町開拓郷土館の収蔵資料を、開拓郷土館に代わる常設の「博物館・資料館」などの施設において活用するための具体的な計画づくりのための予算措置を行ってください。

以上